

～保護者の皆さまと
学科をつなぐ
ほっとライン～

しまなみだより



Department of Nursing

第7号 2016年10月発行

錦秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本学の教育にご理解とご協力を頂きありがとうございます。本号では前期のトピックスをお届けします。後期は、1・2年生は専門科目の学修が増え、3年生は急性期・慢性期看護実習、老年看護実習が始まりました。4年生は卒業研究を本格的に進めています。11月にある大学祭では、後援会主催の保護者懇談会が開催されます。後援会加入の皆様はぜひお越しください。今後ともご支援をよろしく願いいたします。

看護学科広報担当部会



5/13 オリエンテーションセミナーにて
1年生全員の集合写真！！

1年生：大学基礎セミナー



「地元紹介 宮島」の発表で実演した「揚げもみじ」の試食の様子

全学科1年生が前期に履修する大学基礎セミナーについてご紹介します。この科目は大学生活における基礎知識を学び、大学生としての学修方法を修得することを目標としています。9～10名の学生に1名の教員が関わります。私は理学、作業、看護学科の学生9名のグループを担当しました。私たちのグループでは各自の関心ごとからテーマを決め、調査し、効果的なプレゼンテーションを行えるように、演習を行いました。テーマは「地元紹介-尾道-」「水泳の魅力」など多岐に及び、パワーポイントによる発表だけでなく実演も交えて行う学生もいました。「地元紹介-宮島-」ではもみじ饅頭を油で揚げた「揚げもみじ」を実際に実習室で調理し、試食しました。この科目で経験した、『テーマを決定する、スケジュールを立てる、情報を収集する、構成を考える、発表の方法を考える』ことは、学生生活で必要となるスキルなので、今後も活用してもらいたいと思っています。

(永井庸央)

2年生：看護技術演習

「診療に伴う看護方法論」が始まり、5月～2か月間にわたって、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射、点滴静脈注射、静脈血採血の演習を行いました。初めて実際の注射器・注射針を扱うということもあり、学生全員が真剣な面持ちで臨みました。患者役の学生は腕モデルを装着し、看護師役の学生は患者役の学生に「患者確認」、「適切な体位の説明」を行い注射を実施します。初めのうちは、注射器の持ち方や、薬液の吸い上げに戸惑う様子もありましたが、回数を重ねるごとに、確実に上達していきました。これから、より専門的な講義や技術になっていきますが、1つ 1つ確実に習得していただきたいと思います。（三宅由希子）



注射の準備をしている様子



筋肉注射モデルを着用した学生に注射をしている様子

3年生：災害看護

災害大国であるわが国では、看護師にとって「災害看護」の知識は不可欠となっています。本学では3年生の前期に「災害看護」について学修します。災害看護の基礎知識から始まり、要援護者の看護支援、救急トリアージ、救援者の支援、病院での防災等について学びます。学修方法は、本学教員3名と、DMAT(災害医療派遣チーム)の看護師や三原市消防隊員の方を講師として、グループワークや演習形式のアクティブラーニングが主体です。（日高陵好）



写真は消防隊員から三角巾を用いた応急手当や、毛布の担架による運搬法について学んでいるところです。



Department of Nursing

4年生：看護実習

4年生の前期では、小児看護実習、精神看護実習、在宅看護実習、それに加え保健師課程の学生は公衆衛生看護実習がありました。学生は対象者に合わせた個別性のある看護を考えながら、実習をすることができました。

小児看護実習は、保育所と医療施設で実習をし、保育所での実習で乳幼児の成長段階や生活の様子を知り、入院中の子どもへの看護に活かします。今年は手術目的で入院してくる子どもを多く担当し、手術に関する生活上の注意点を、子どもに分かるような絵本形式にし伝える援助をしました。短時間での作成ですが、学生らしいユーモアあるアイデアで、手術を受ける子どもだけではなく家族の方にも喜ばれました。これらの看護を通して、子どもに手術に関する情報を伝えることの必要性を分かってもらえる工夫をすることの大切さを感じていたようです。（鴨下加代）



小児看護実習終了時の白衣姿での記念撮影

オープンキャンパス

オープンキャンパスでは今年も2000人を超える多くの来場者を迎え、学生はボランティアとして活躍しました。「学生プレゼンテーション」では、今回初めてとなる来場者の質問にその場で回答する企画を行いました。講義や実習で印象に残っていることや興味深かったことについて紹介し、通学やクラブ活動の様子など学生生活について高校生へ具体的に伝えていました。（土路生明美）



学生プレゼンテーションの様子



学科紹介の様子



プレゼンテーション後の写真！

教員紹介 ～水馬朋子准教授～

本学では、平成 24 年度の入学生から保健師教育は「選択制」に変更しました。保健師教育の質の向上を目的として、全国的に大学院化や選択制へ移行しています。私は、その保健師課程を主に担当しています。保健師は、地域で生活する人々の健康増進のために、健康な人だけでなく、病気や障害がある人も、その人の能力を活かし健康な生活ができるようサポートをしたり、住みやすいまちづくりを目指して活動しています。

保健師課程の学生は、保健所・市役所や事業所等で実習します。実習では、住民を対象にした家庭訪問や健康教育等の事業に参加して、住民から生活実態を聞き取り、生活や労働環境と病気との関連を考えます。さらに地域の統計データなど様々な情報から健康課題を考え、課題解決のための地域活動や健康づくりのノウハウを学びます。多様な生活様式や価値観をもたれた住民と保健師等専門職が知恵を出し合いながら、健康課題解決へと取り組む、地域における看護活動(公衆衛生看護)のやりがいを感じたいと思います。(水馬朋子)



保健師課程の学生に健康教育について実習指導をしている水馬准教授



～卒業生 頑張っています！



平成 23 年度卒業生
中寿賀 弘さん
県立広島病院 看護師

卒業後、県立広島病院に就職し、現在西8病棟(総合診療科・脳神経内科・脳神経外科・皮膚科・糖尿病内分泌内科)に勤務しています。複合病棟であり、さまざまな症状・病態の患者さんと関わります。毎日が勉強であり新鮮な気持ちで働いています。平成 27 年に糖尿病療養指導士の免許を取得しました。日々の勤務をしながら、糖尿病教育入院の患者さんを中心に療養指導を行っています。糖尿病は生活習慣からの発症はもちろん、様々な疾患の合併症としてあらわれることがあります(例えば自己免疫性疾患治療のステロイド薬の副作用での発症など)、急激な発症や、基礎疾患と並行しての治療に不安や戸惑いを持っている患者さんも多いです。その患者さんにいかに理解しやすく、不安をできるだけ軽減し、長期になる糖尿病との関係をライフスタイルに組み込んでもらえるか、医師や栄養士・薬剤師等のコメディカルスタッフと情報を共有し、患者さんの個別性を大切にしながら指導をしています。

(中寿賀弘)

看護学科「学生生活通信」について ご意見・ご感想などお寄せ下さい。
〒723-0053 広島県三原市学園町 1-1 TEL : 0848-60-1120 (代表)
FAX : 0848-60-1134 (代表) E-mail : nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp
発行：県立広島大学保健福祉学部看護学科 広報担当部会